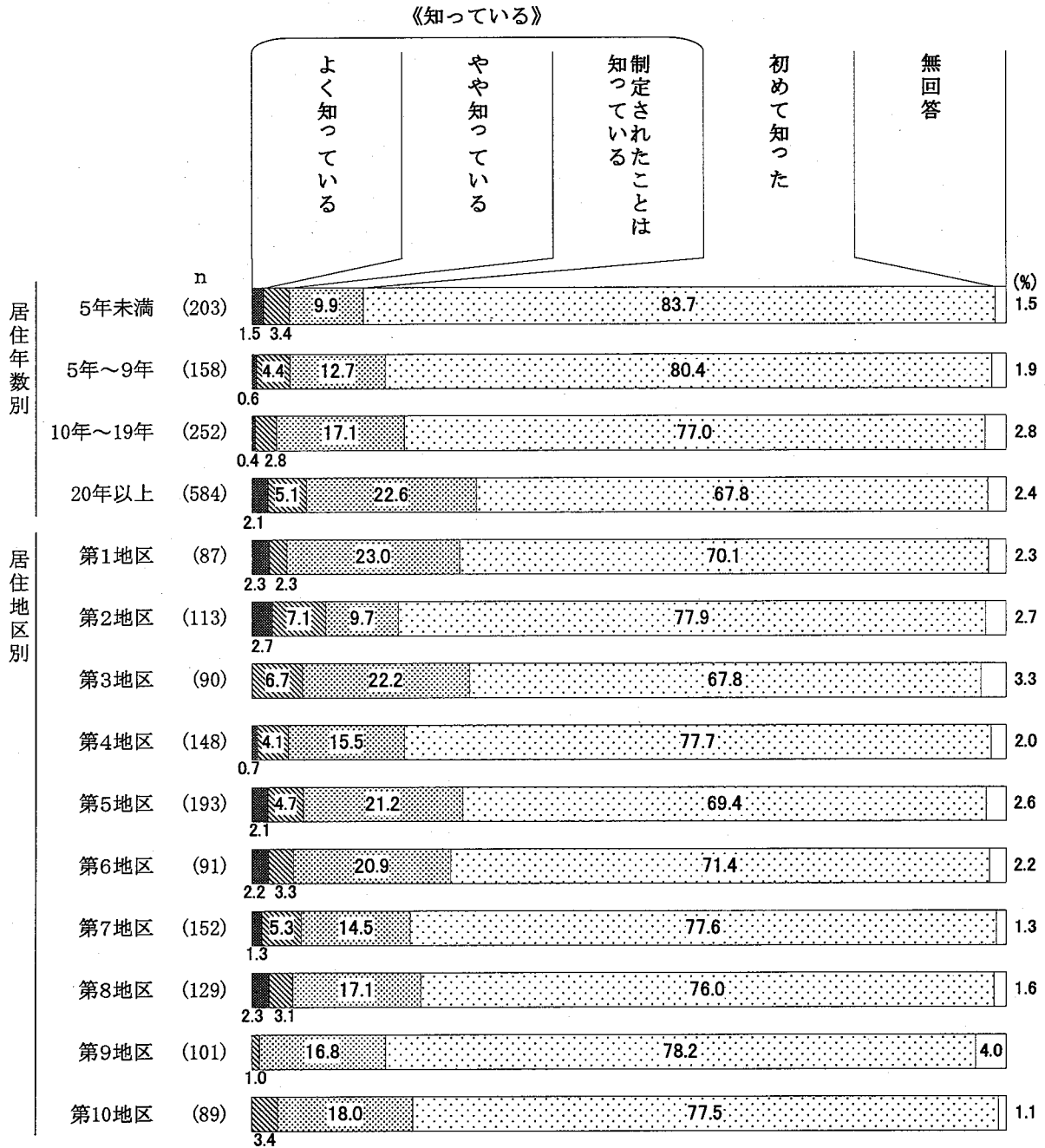


【居住年数別・居住地区別】

居住年数別にみると、「初めて知った」は9年以下で8割以上と多くなっている。《知っている》は居住年数が長くなるほど割合が多くなり、10年～19年で20.3%、20年以上で29.8%となっている。

居住地区別にみると、「初めて知った」は多くの地区で7割台と多くなっており、《知っている》は多くの地区で2割台となっている。(図3-15)

<図3-15> 居住年数別・居住地区別



## 4 防災について

### (1) 大地震への不安

◇77.3%の人が大地震への不安を感じている。

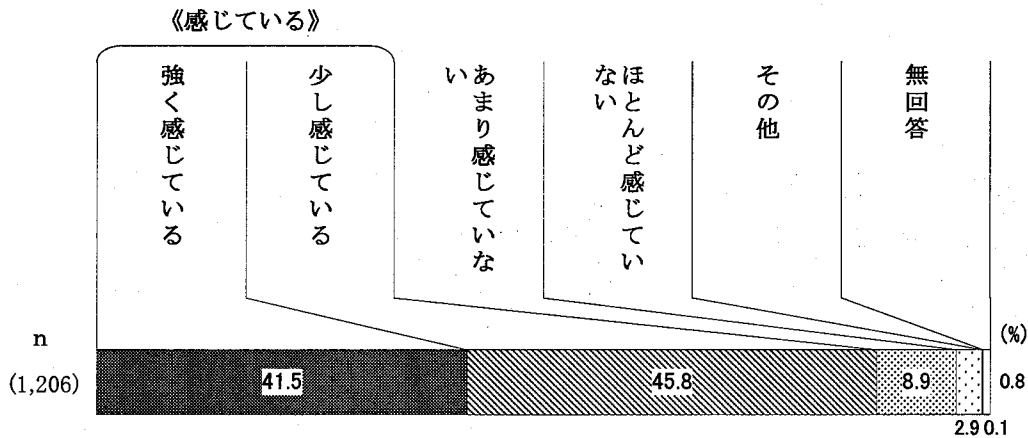
問10 首都圏で大地震が起こるのではないかと不安がありますか。(○は1つ)

[n=1,206]

1. 強く感じている	41.5%	4. ほとんど感じていない	2.9
2. 少し感じている	45.8	5. その他	0.1
3. あまり感じていない	8.9	(無回答)	0.8

首都圏での大地震への不安については、「強く感じている」が41.5%、「少し感じている」が45.8%で、これをあわせた《感じている》は87.3%となっており、多くの人が大地震への不安を感じている。(図4-1)

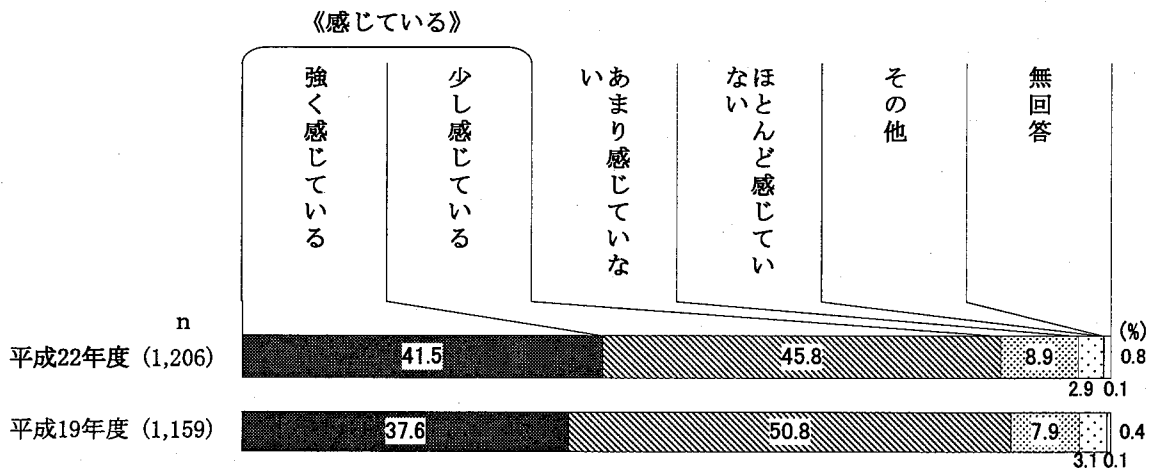
<図4-1>大地震への不安



#### 【時系列比較】

時系列の比較では、特に大きな差はみられない。(図4-2)

<図4-2>時系列比較



(2) 大地震が起きた場合に知りたいこと

◇「家族、親戚、知人の安否」が78.4%で最も多い。

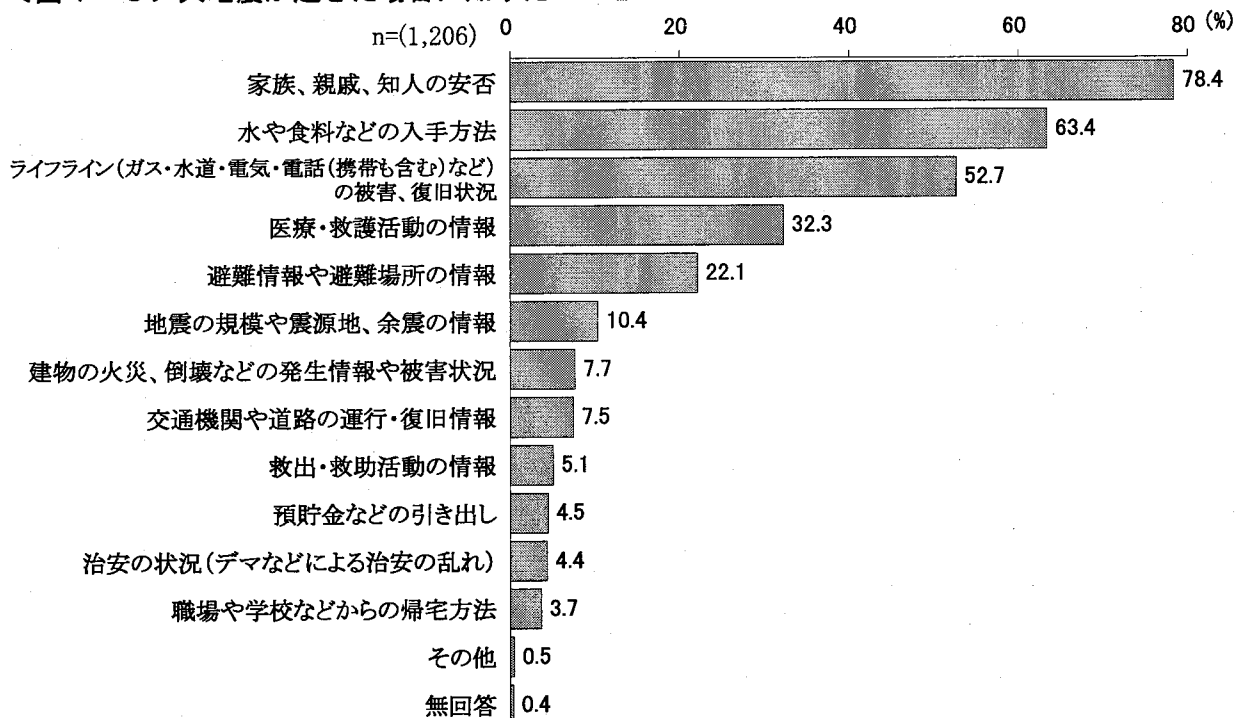
問11 大地震が起きた場合に、特に知りたいことは何ですか。(○は3つまで)

[n=1,206]

1. 家族、親戚、知人の安否	78.4%
2. 水や食料などの入手方法	63.4
3. ライフライン（ガス・水道・電気・電話（携帯も含む）など）の被害、復旧状況	52.7
4. 地震の規模や震源地、余震の情報	10.4
5. 建物の火災、倒壊などの発生情報や被害状況	7.7
6. 医療・救護活動の情報	32.3
7. 避難情報や避難場所の情報	22.1
8. 救出・救助活動の情報	5.1
9. 交通機関や道路の運行・復旧情報	7.5
10. 職場や学校などからの帰宅方法	3.7
11. 預貯金などの引き出し	4.5
12. 治安の状況（デマなどによる治安の乱れ）	4.4
13. その他	0.5
（無回答）	0.4

大地震が起きた場合に、特に知りたいことは、「家族、親戚、知人の安否」が78.4%で最も多く、以下、「水や食料などの入手方法」（63.4%）、「ライフライン（ガス・水道・電気・電話（携帯も含む）など）の被害、復旧状況」（52.7%）、「医療・救護活動の情報」（32.3%）、「避難情報や避難場所の情報」（22.1%）などが続いている。（図4-3）

<図4-3> 大地震が起きた場合に知りたいこと

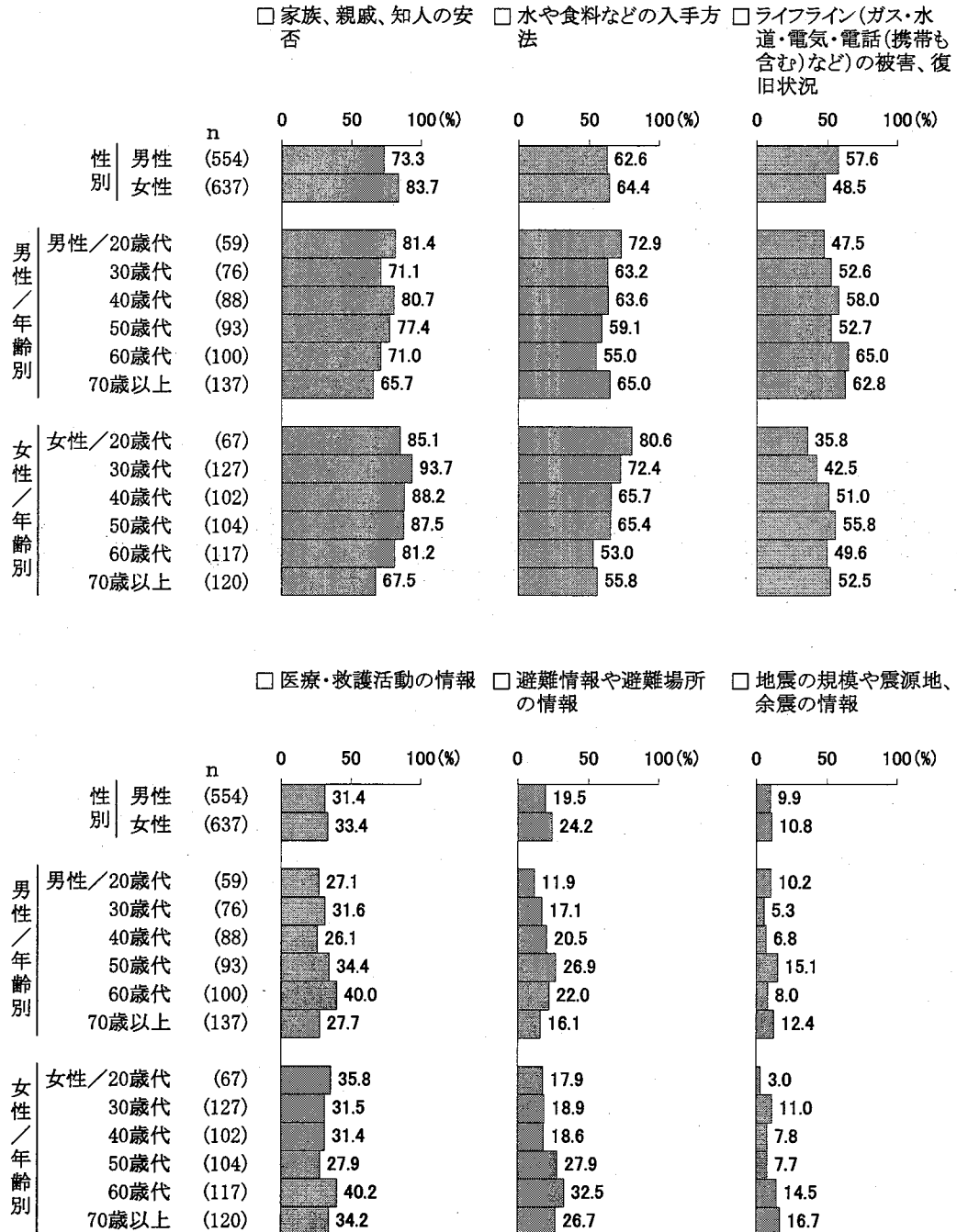


【性別・性／年齢別】

性別にみると、下図の上位6項目は男女とも同順となっている。「家族、親戚、知人の安否」は女性（83.7%）が男性（73.3%）を10ポイント、「ライフライン（ガス・水道・電気・電話（携帯も含む）など）の被害、復旧状況」は男性（57.6%）が女性（48.5%）を9ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、「家族、親戚、知人の安否」はすべての年齢で最も多くなっている。この他、「ライフライン（ガス・水道・電気・電話（携帯も含む）など）の被害、復旧状況」が男性の60歳代以上で6割台、「医療・救護活動の情報」が男女の60歳代で4割台、「避難情報や避難場所の情報」が女性の60歳代（32.5%）で3割台と他の年齢より多くなっている。（図4-4）

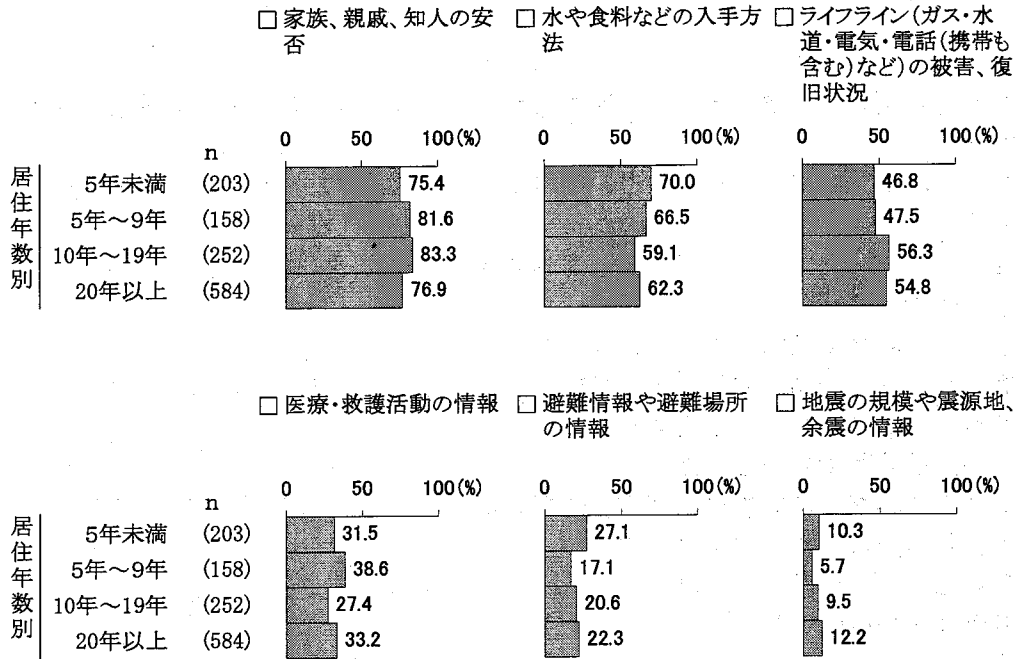
<図4-4>性別・性／年齢別



【居住年数別】

居住年数別にみると、いずれの年数でも「家族、親戚、知人の安否」が7割から8割台と最も多く、下図の6項目は同順となっている。(図4-5)

<図4-5>居住年数別



(3) 日頃の地震対策

◇「非常持ち出し品の用意」が44.5%で最も多い。

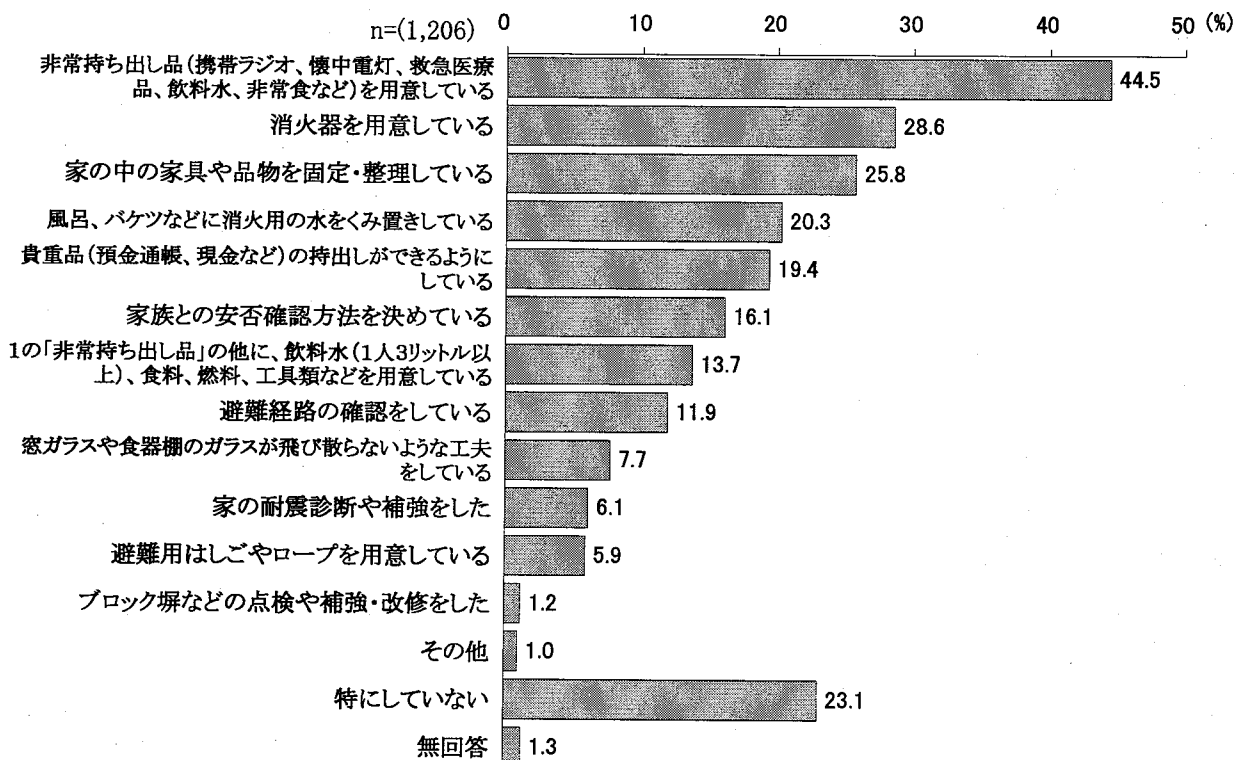
問12 地震が起きた時のために、家庭で日頃から備えて（行っている）いるものは何ですか。  
（〇はいくつでも可）

[n=1,206]

1. 非常持ち出し品（携帯ラジオ、懐中電灯、救急医療品、飲料水、非常食など）を用意している	44.5%
2. 1の「非常持ち出し品」の他に、飲料水（1人3リットル以上）、食料、燃料、工具類などを用意している	13.7
3. 風呂、バケツなどに消火用の水をくみ置きしている	20.3
4. 消火器を用意している	28.6
5. 家の中の家具や品物を固定・整理している	25.8
6. 窓ガラスや食器棚のガラスが飛び散らないような工夫をしている	7.7
7. 避難用はしごやロープを用意している	5.9
8. 家の耐震診断や補強をした	6.1
9. ブロック塀などの点検や補強・改修をした	1.2
10. 家族との安否確認方法を決めている	16.1
11. 貴重品（預金通帳、現金など）の持出しができるようにしている	19.4
12. 避難経路の確認をしている	11.9
13. その他	1.0
14. 特にしていない （無回答）	23.1 1.3

日頃からの地震対策では、「非常持ち出し品（携帯ラジオ、懐中電灯、救急医療品、飲料水、非常食など）を用意している」が44.5%で特に多くなっている。以下、「消火器を用意している」（28.6%）、「家の中の家具や品物を固定・整理している」（25.8%）、「風呂、バケツなどに消火用の水をくみ置きしている」（20.3%）が2割台で続いている。（図4-6）

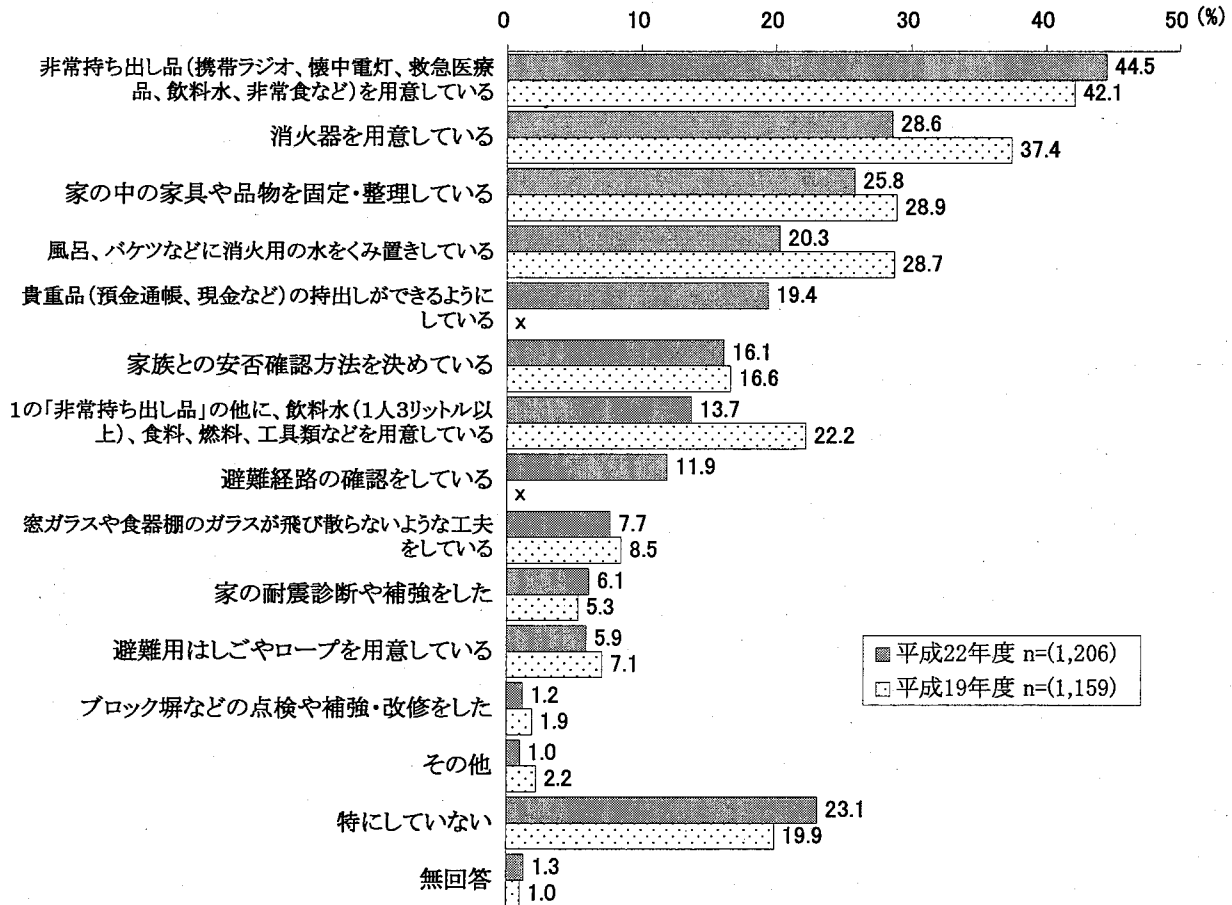
<図4-6>日頃の地震対策



【時系列比較】

時系列で比較すると、多くの項目で前回（平成19年度）調査から減少となっており、「非常持ち出し品（携帯ラジオ、懐中電灯、救急医療品、飲料水、非常食など）を用意している」、「1の『非常持ち出し品』の他に、飲料水（1人3リットル以上）、食料、燃料、工具類などを用意している」で9ポイント、「風呂、バケツなどに消火用の水をくみ置きしている」で8ポイントの減少となっている。（図4-7）

<図4-7>時系列比較

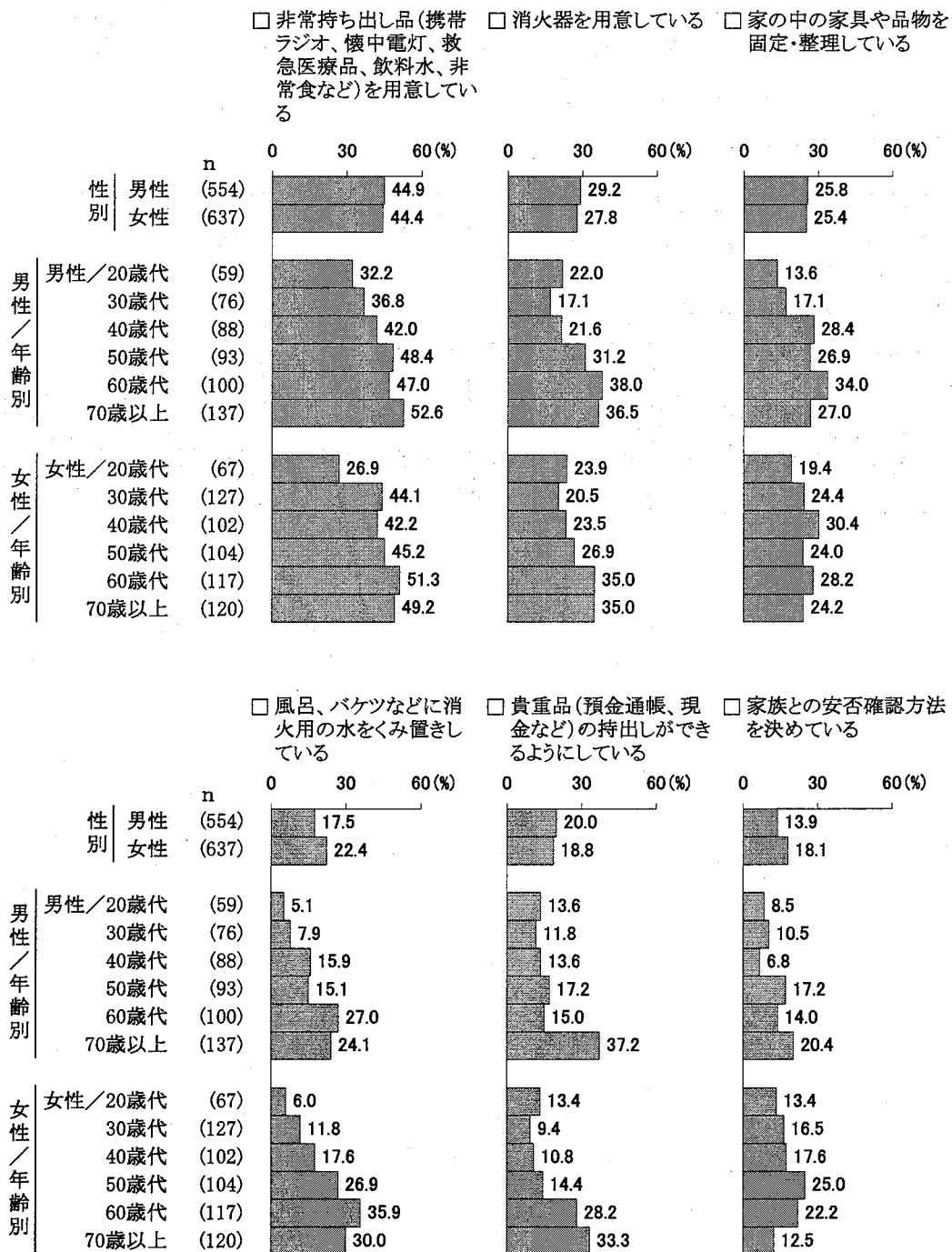


【性別・性／年齢別】

性別にみると、「風呂、バケツなどに消火用の水をくみ置きしている」は女性(22.4%)が男性(17.5%)を5ポイント、「家族との安否確認方法を決めている」は女性(18.1%)が男性(13.9%)を4ポイントそれぞれ上回っている。

性・年齢別にみると、「非常持ち出し品(携帯ラジオ、懐中電灯、救急医療品、飲料水、非常食など)を用意している」はすべての年齢で最も多くなっている。「消火器を用意している」は男性の50歳代以上、女性の60歳代以上で3割台と多く、この他では「家の中の家具や品物を固定・整理している」が男性の60歳代、女性の40歳代で、「風呂、バケツなどに消火用の水をくみ置きしている」が女性の60歳代以上で、「貴重品(預金通帳、現金など)の持ち出しができるようにしている」が男女とも70歳以上でそれぞれ3割台と他の年齢より多くなっている。(図4-8)

<図4-8>性別・性／年齢別





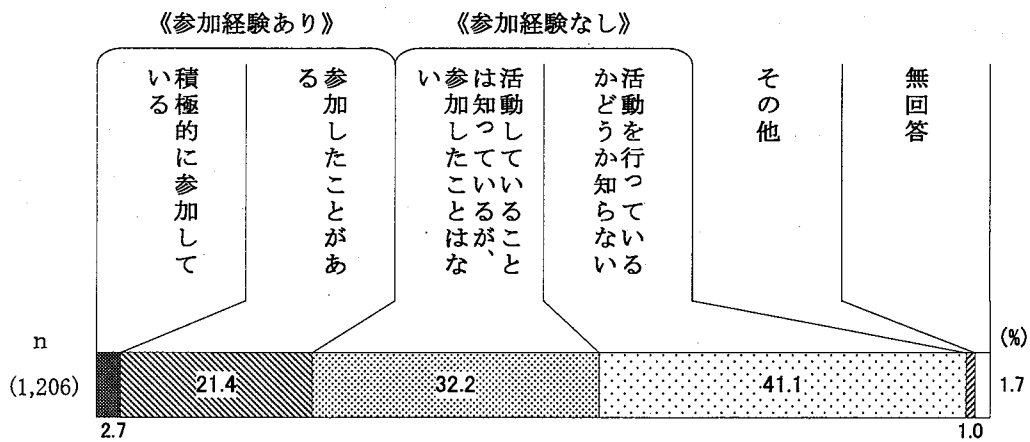
(4) 地域の自主的な防災活動への参加状況

◇ 《参加経験あり》が24.1%、《参加経験なし》が73.3%。

問13 地域の自主的な防災活動へ参加していますか。(〇は1つ)	
[n=1,206]	
1. 積極的に参加している	2.7%
2. 参加したことがある	21.4
3. 活動していることは知っているが、参加したことはない	32.2
4. 活動を行っているかどうか知らない	41.1
5. その他	1.0
(無回答)	1.7

地域の自主的な防災活動への参加状況は、「積極的に参加している」(2.7%)と「参加したことがある」(21.4%)をあわせた《参加経験あり》は24.1%となっている。また、「活動していることは知っているが、参加したことはない」は32.2%と多く、これに「活動を行っているかどうか知らない」(41.1%)をあわせた《参加経験なし》は73.3%となる。(図4-9)

<図4-9>地域の自主的な防災活動への参加状況

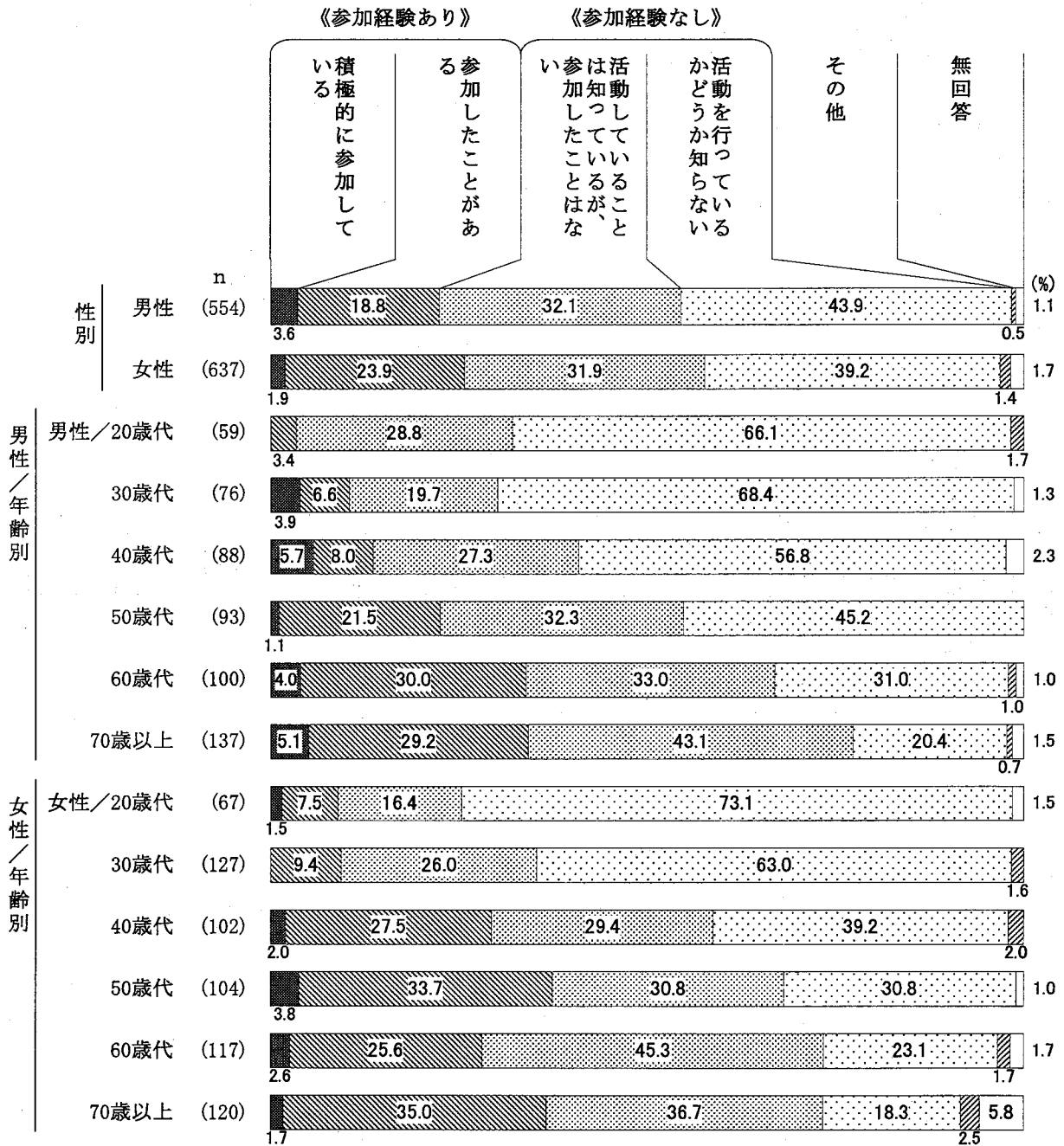


【性別・性／年齢別】

性別にみると、男女とも《参加経験あり》は2割台、《参加経験なし》は7割台と多く、男性の方が《参加経験なし》がやや多い。

性・年齢別にみると、《参加経験あり》は年齢が高いほど割合が多く、男性の50歳代以上、女性の40歳代以上で2割から3割台となっている。逆に《参加経験なし》は年齢が低いほど割合が多く、男性の20歳代から40歳代、女性の20・30歳代で8割以上となっている。(図4-10)

<図4-10>性別・性／年齢別

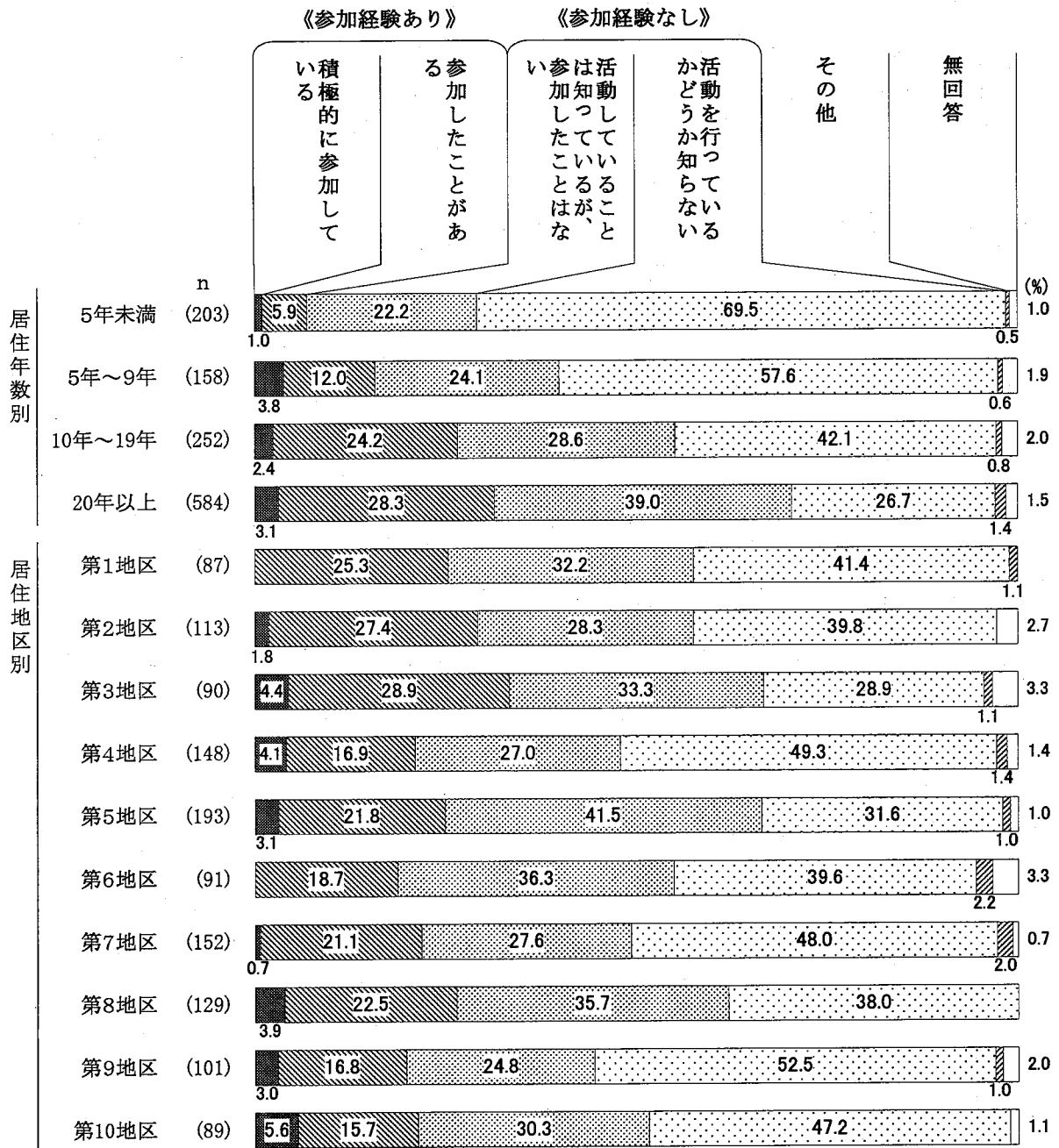


【居住年数別・居住地区別】

居住年数別にみると、《参加経験あり》は5年未満で6.9%と少ないが、20年以上で31.4%と多くなるように、居住年数が長いほど割合が多くなる。

居住地区別にみると、《参加経験あり》は第3地区で33.3%と他の地区より多くなっている。また、《参加経験なし》はいずれの地区でも6割から7割台と多くなっている。(図4-11)

<図4-11>居住年数別・居住地区別



(4-1) 参加した地域の自主的な防災活動の内容

◇「消火訓練」が82.4%で特に多い。

(問13で「1」「2」と答えた方におたずねします。)

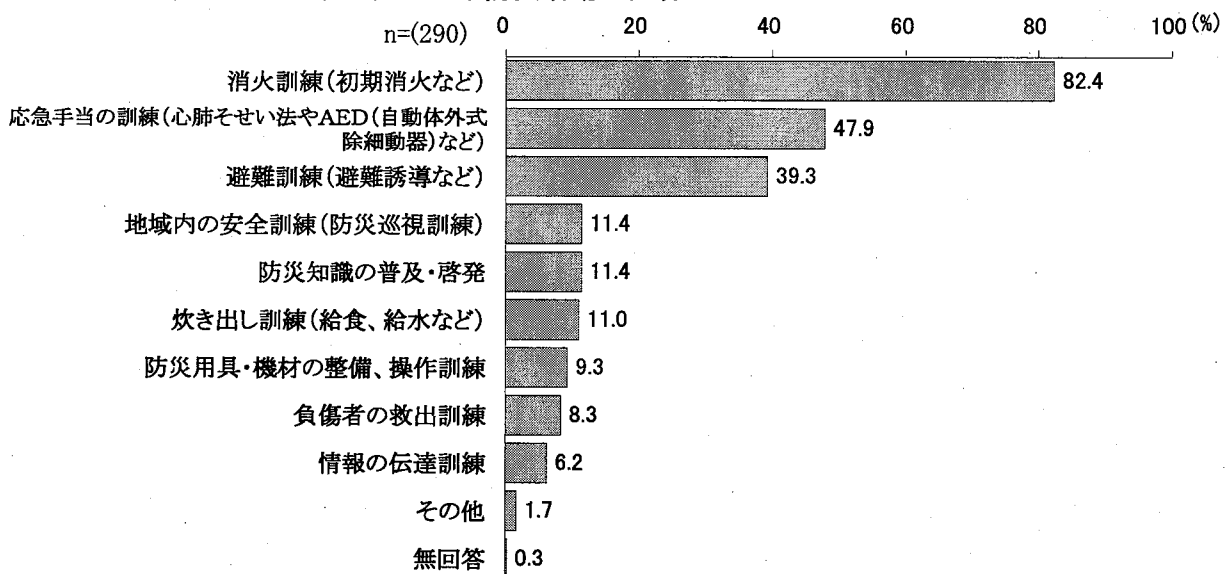
問13-1 その活動はどのようなものですか。(〇はいくつでも可)

[n=290]

1. 消火訓練 (初期消火など)	82.4%
2. 避難訓練 (避難誘導など)	39.3
3. 負傷者の救出訓練	8.3
4. 応急手当の訓練 (心肺そせい法やAED (自動体外式除細動器) など)	47.9
5. 炊き出し訓練 (給食、給水など)	11.0
6. 防災用具・機材の整備、操作訓練	9.3
7. 情報の伝達訓練	6.2
8. 地域内の安全訓練 (防災巡視訓練)	11.4
9. 防災知識の普及・啓発	11.4
10. その他	1.7
(無回答)	0.3

問13で《参加経験あり》と回答した人の活動内容は、「消火訓練 (初期消火など)」が82.4%と特に多くなっている。以下、「応急手当の訓練 (心肺そせい法やAED (自動体外式除細動器) など) (47.9%)」、「避難訓練 (避難誘導など) (39.3%)」などが続いている。(図4-12)

<図4-12> 参加した地域の自主的な防災活動の内容

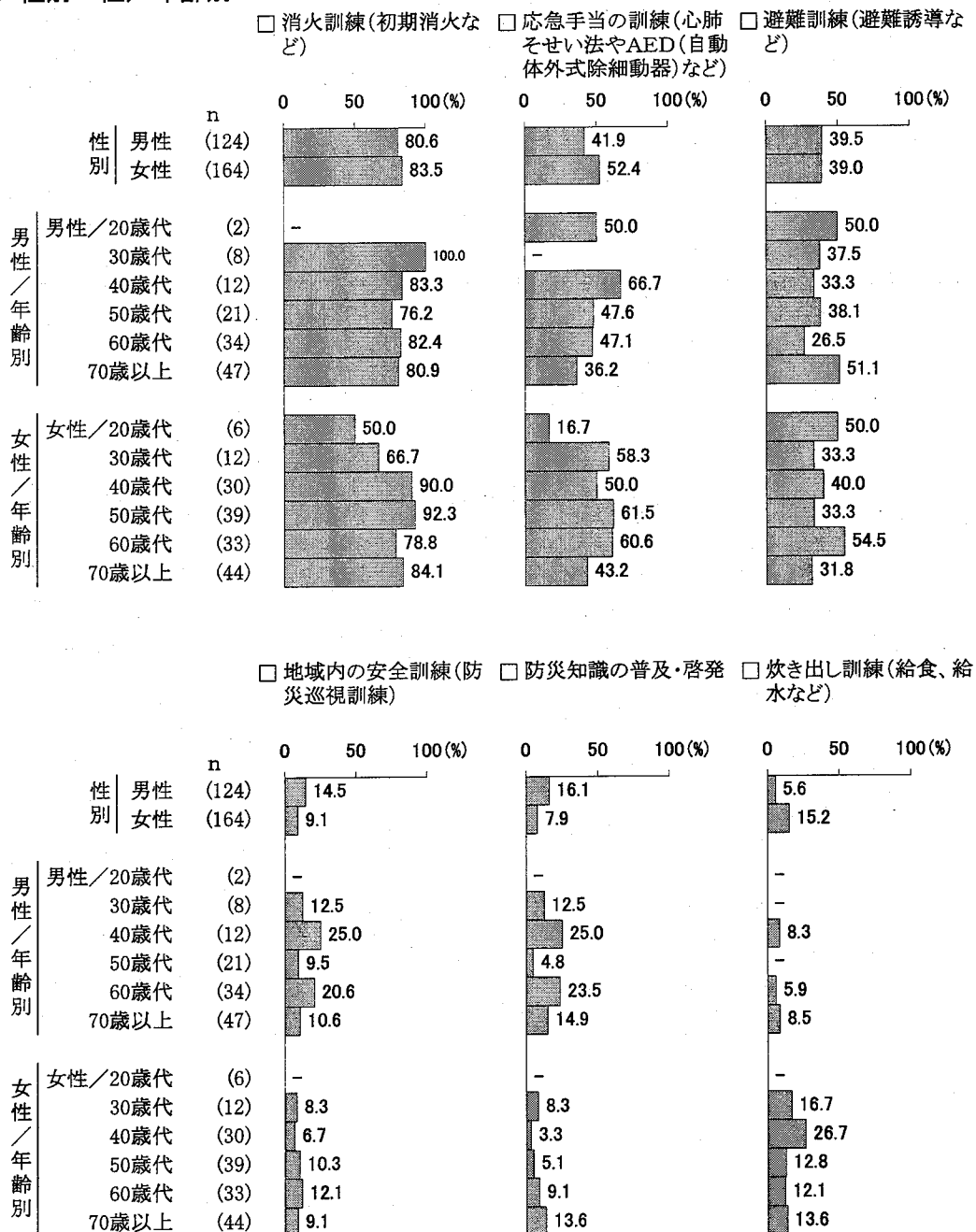


【性別・性／年齢別】

性別にみると、「消火訓練（初期消火など）」は男女とも8割台で多くなっている。また、「応急手当の訓練（心肺そせい法やAED（自動体外式除細動器）など）」、「炊き出し訓練（給食、給水など）」では女性が男性を10ポイント以上上回り、「地域内の安全訓練（防災巡視訓練）」は男性が女性を5ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、「消火訓練（初期消火など）」、「応急手当の訓練（心肺そせい法やAED（自動体外式除細動器）など）」、「避難訓練（避難誘導など）」の3項目が多く歳の年齢で上位にあげられている。（図4-13）

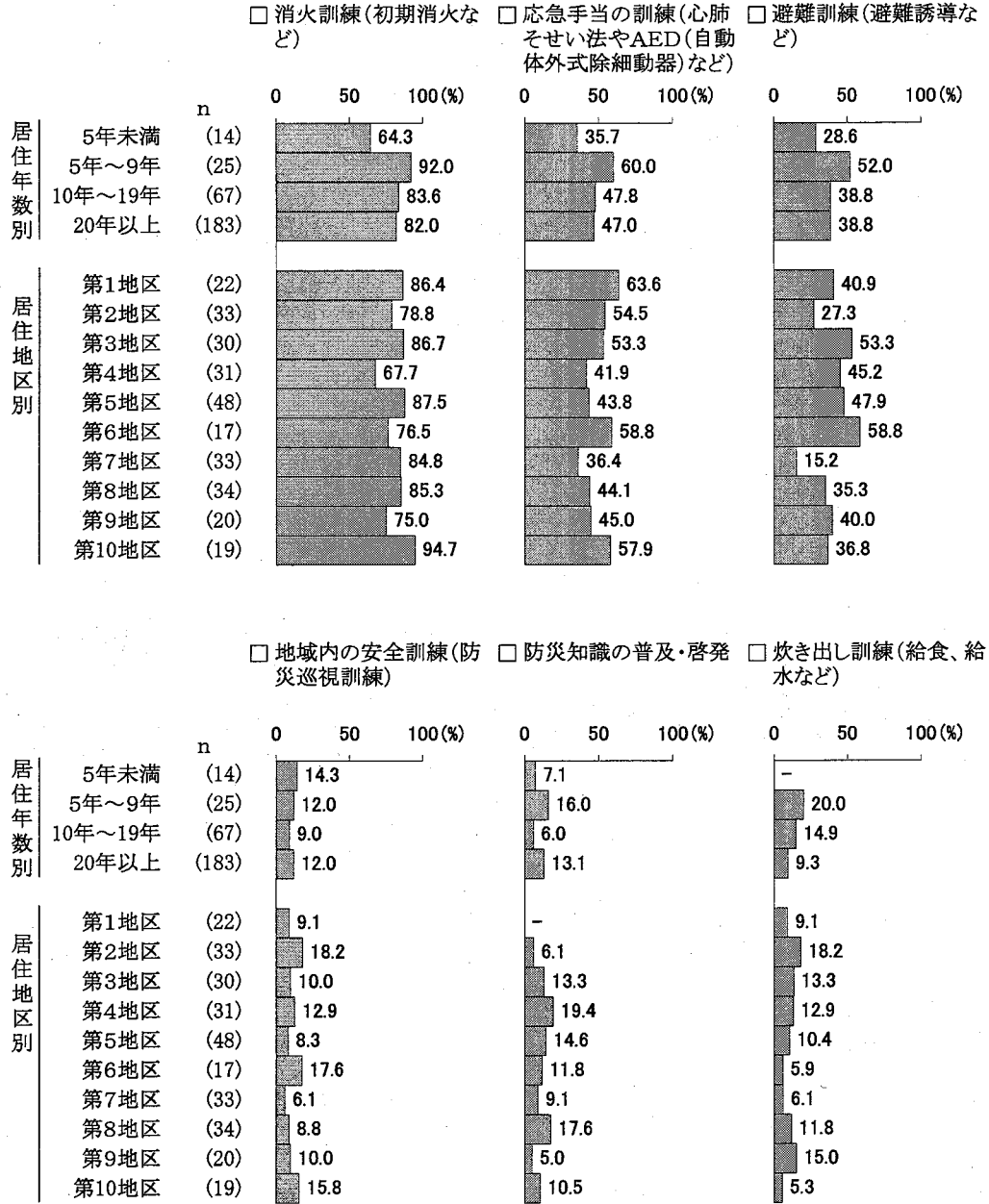
<図4-13>性別・性／年齢別



【居住年数別・居住地区別】

居住年数別、および居住地区別にみると、「消火訓練（初期消火など）」、「応急手当の訓練（心肺そせい法やAED（自動体外式除細動器）など）」、「避難訓練（避難誘導など）」の3項目がいずれの年数、地区でも上位にあげられている。（図4-14）

<図4-14> 居住年数別・居住地区別



(5) 市に望む防災対策

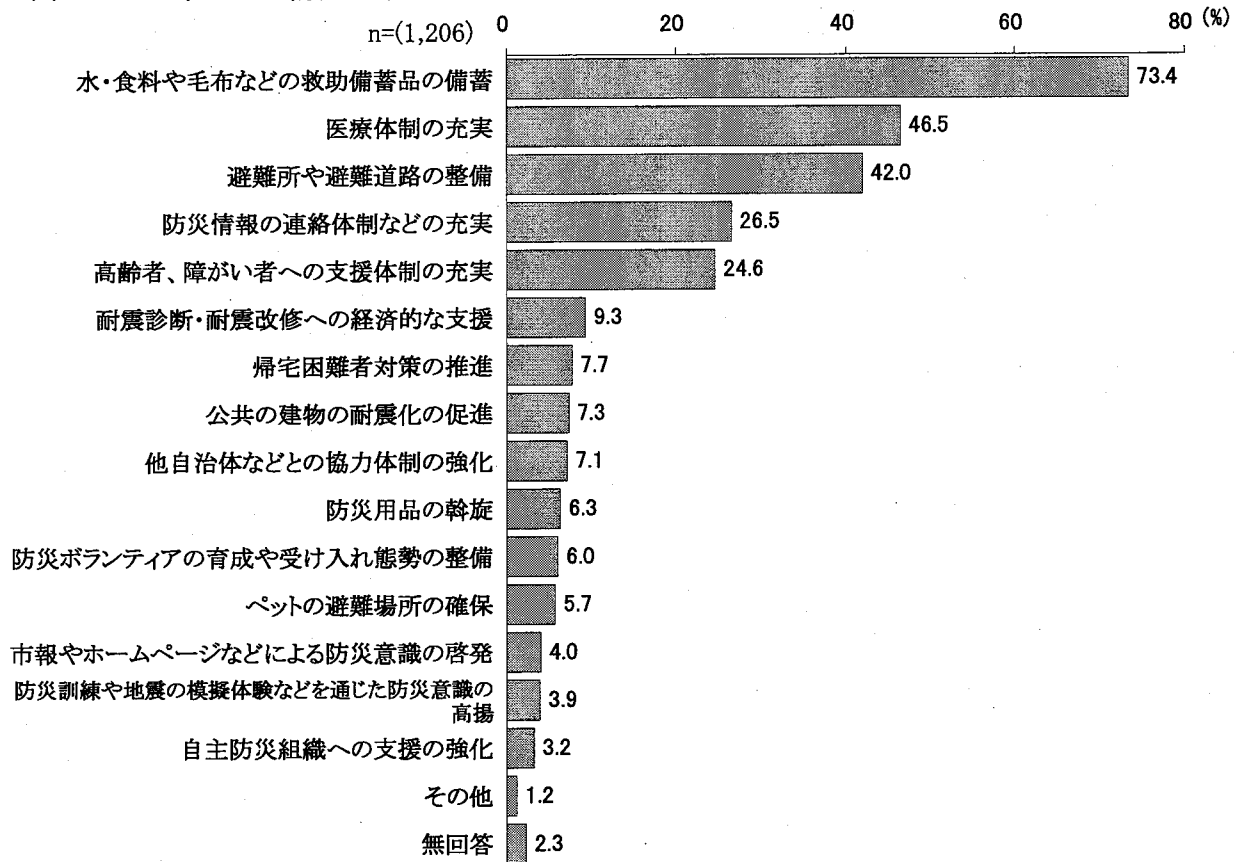
◇「水・食料や毛布などの救助備蓄品の備蓄」が73.4%で特に多い。

問14 防災対策で主に市に望むことは何ですか。(○は3つまで)  
[n=1,206]

1. 水・食料や毛布などの救助備蓄品の備蓄	73.4%	9. 他自治体などとの協力体制の強化	7.1
2. 避難所や避難道路の整備	42.0	10. 防災ボランティアの育成や受け入れ態勢の整備	6.0
3. 防災情報の連絡体制などの充実	26.5	11. 耐震診断・耐震改修への経済的な支援	9.3
4. 市報やホームページなどによる防災意識の啓発	4.0	12. 公共の建物の耐震化の促進	7.3
5. 高齢者、障がい者への支援体制の充実	24.6	13. ペットの避難場所の確保	5.7
6. 自主防災組織への支援の強化	3.2	14. 防災用品の斡旋	6.3
7. 医療体制の充実	46.5	15. 帰宅困難者対策の推進	7.7
8. 防災訓練や地震の模擬体験などを通じた防災意識の高揚	3.9	16. その他(無回答)	1.2 2.3

防災対策で主に市に望むことは、「水・食料や毛布などの救助備蓄品の備蓄」が73.4%で特に多くなっている。以下、「医療体制の充実」(46.5%)、「避難所や避難道路の整備」(42.0%)が4割台、「防災情報の連絡体制などの充実」(26.5%)、「高齢者、障がい者への支援体制の充実」(24.6%)が2割台で続いている。(図4-15)

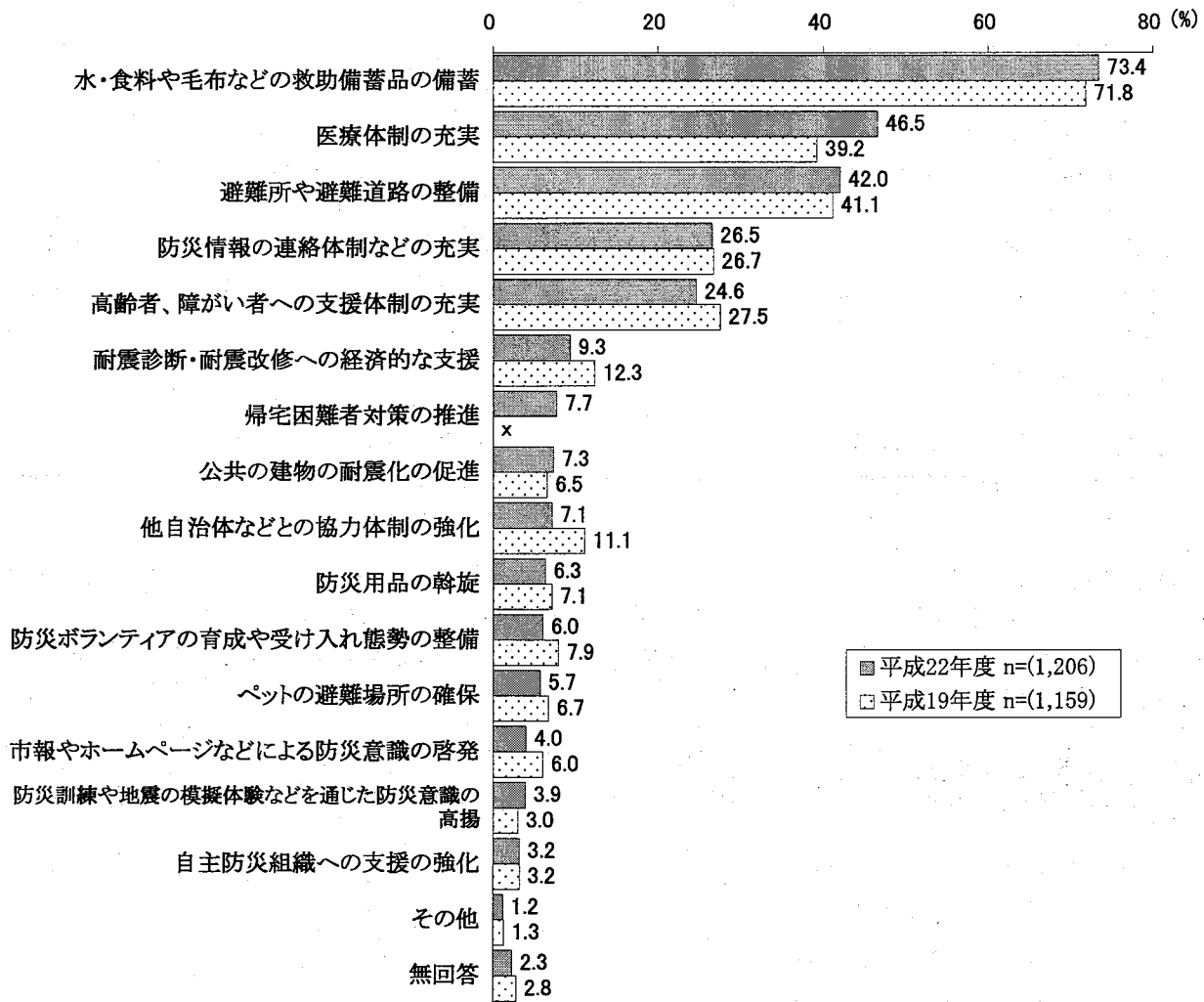
<図4-15>市に望む防災対策



【時系列比較】

時系列で比較すると、上位3項目は前回（平成19年度）調査から増加しており、「医療体制の充実」では7ポイントの増加となっている。（図4-16）

<図4-16>時系列比較





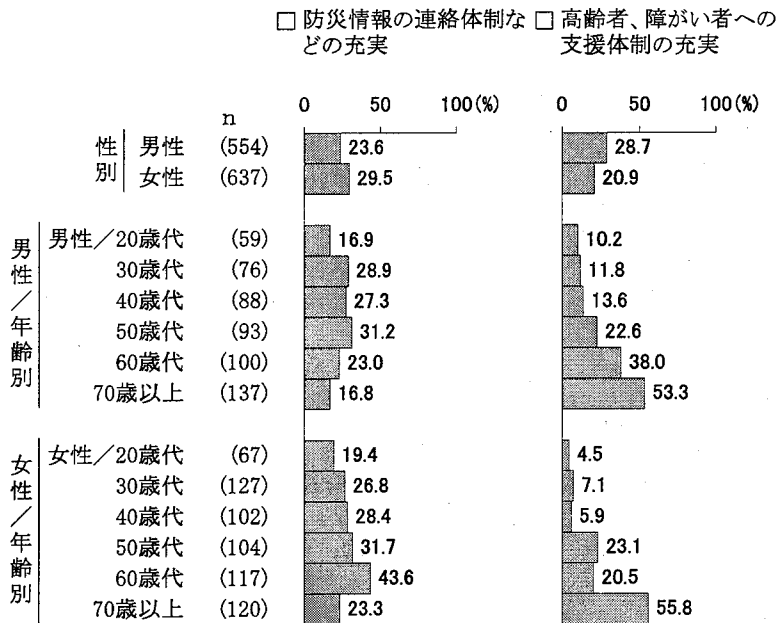
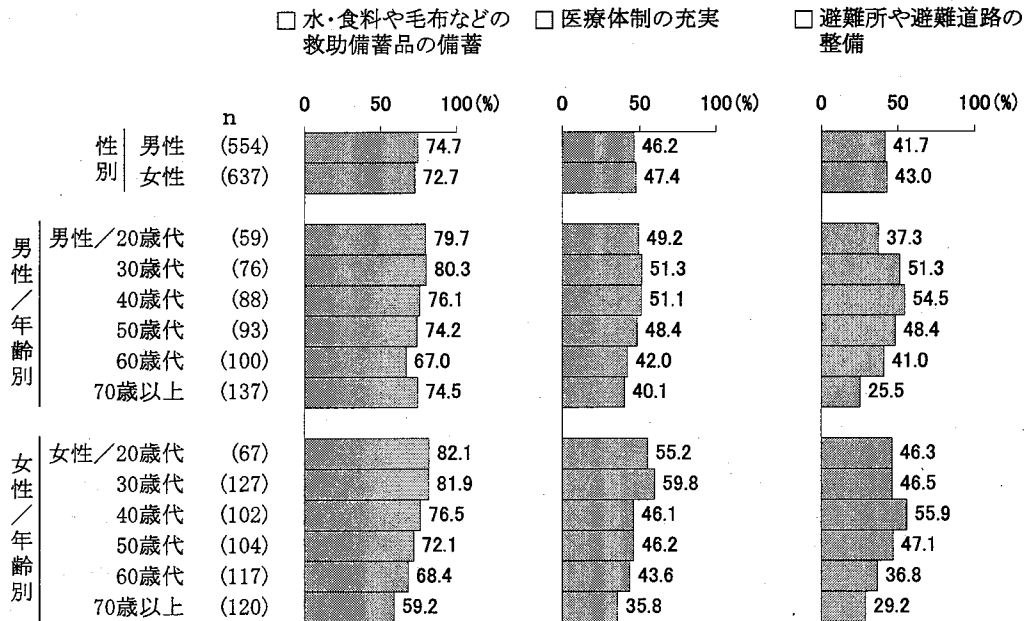
【性別・性／年齢別】

性別にみると、「水・食料や毛布などの救助備蓄品の備蓄」は男女とも7割台で最も多くなっている。また、「高齢者、障がい者への支援体制の充実」は男性（28.7%）が女性（20.9%）を8ポイント、「防災情報の連絡体制などの充実」は女性（29.5%）が男性（23.6%）を6ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、「水・食料や毛布などの救助備蓄品の備蓄」、「医療体制の充実」は多くの年齢で上位にあげられており共通した要望となっている。また、「避難所や避難道路の整備」は男女40歳代と男性の30歳代で、「高齢者、障がい者への支援体制の充実」は男女70歳以上でそれぞれ5割台、「防災情報の連絡体制などの充実」は女性の60歳代で4割台となっており、他の年齢より多くなっている。

（図4-17）

<図4-17> 性別・性／年齢別



【居住年数別・居住地区別】

居住年数別にみると、いずれの年数でも「水・食料や毛布などの救助備蓄品の備蓄」、「医療体制の充実」が多くあげられている。また、「避難所や避難道路の整備」は5年未満、10年～19年で5割台、「高齢者、障がい者への支援体制の充実」は20年以上で、「防災情報の連絡体制などの充実」は5年～9年でそれぞれ3割台と他の地区より多くなっている。

居住地区別にみると、いずれの地区でも「水・食料や毛布などの救助備蓄品の備蓄」、「医療体制の充実」が多くあげられている。また、「避難所や避難道路の整備」は第10地区、第4地区で5割台、「防災情報の連絡体制などの充実」は第8地区、第9地区で、「高齢者、障がい者への支援体制の充実」は第3地区、第5地区でそれぞれ3割台と他の地区より多くなっている。(図4-18)

<図4-18>居住年数別・居住地区別

